

日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒700-0005
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト教会館内
TEL 086-422-1780

メッセージ

天城教会・琴浦教会 牧師 床次隆志

和解とは「破れた愛の絆を修復することによって疎外と対決とを取り去ること」

(F・ゴンザレス) です。罪を犯す人間であるにも関わらず、神はなお自らの命であるイエスにおいて和解し、人間を赦しました。そして、信仰者は社会で和解のために奉仕する任務を与えられます(二コリント5:18-19)。

編み物がひそかにブームになっているようです(朝日新聞六月十日)。奈良女子大学教授で視覚文化論、ジェンダー研究を専門とする、山崎明子さんは編み物が持つ、アクセスの良さと開放性に注目します。編み方を覚えれば、誰かを誘うことができ、つながりを産み、伸び縮みするところに他者とのゆるやかなつながりをイメージすることができ、間違えてもほどこいて、編み直すことができる。うつむくことが多い

め、人と向き合う必要がない。でもお互いの話を聴いているので自分を大切にしながら人と一緒にいることができる。

また、国際政治を専門とするイタリア出身のロレッタ・ナポリオーニさんは編み物に支えられ、本まで出版しました(『編むことは力』)。彼女によれば、編み物は一本の毛糸をつないでいく行為であり、分断が進むこの世界に対抗する手段になると言い、編み物の社会的な機能に注目します。

経済格差やデジタル技術によって分断が進み、バラバラになっていく社会で、伸縮性、クッション性のある毛糸で分厚い編み物を作れば、分断社会に対抗するだけでなく、弱い存在を守ることができる。私はこの記事を読み、教会はまさに編み物のような存在ではないかと思いました。

教会は編み物のように、自らを大切にしつつ、他者とゆるやかにつながり、聴き合い、他者とのつながりによって弱者を保護する働きを担い、社会に抵抗する力を生み出し、不完全な人間への理解と受容を目指します。なぜなら、教会は神が人とつなが

目次

メッセージ	1
新常置委員挨拶	2
各委員長の抱負	3
お聞かせください、地区の声	4
「ハラスメント学習会」報告	5
「長島スタディーツアー」報告	6
「教会お訪ね隊」活動報告・編集後記	7
	8

り直すことにイエスのいのちをかけた、和解の働きを任されているからです。
神がイエス・キリストを通して、罪ある私たちがつながり直された、神の和解の愛に立ちつつ「人間の間に存在すべき愛と尊厳の絆の回復」(F・ゴンザレス)のため

に歩んで参りたいと思います。



天城教会



琴浦教会

「新常置委員挨拶」

岡山教会 牧師 廣田 和浩



二〇二三年四月に岡山教会牧師に就任して、

この年の教区定期総会後から宣教部伝道委員会

委員として、また二〇二四年四月からは岡山県東部地区長（この関連で教会強化特別資金運用特設委員会委員も）として奉仕させていただきました。二十年以上前に私が東中国教区の中でお交わりをいただいていた時と比べて各教会のおかれている状況が大きく変化し、教会のあり方が問われるような厳しい課題に直面している現実が伝わってまいりました。主に導かれ、教区の皆様の祈りに支えられて、委員会審議を通して責任を果たしてまいりたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



倉敷教会 信徒 宮脇 俊昭



主の御名を賛美します。

倉敷教会員の宮脇俊昭と申します。この度常置委員として教

区の働きに加えさせていただくこととなりました。欠けの多い私にとって身に余るお勤めをいただき、正直なところ不安でいっぱいです。それでも主の御助けと皆様のお祈りに支えられつつ、私に出来ることを一つひとつ丁寧に取り組んでまいりたいと願っております。そのことでいくらかでもお役に立てれば幸いです。どうか今後とも皆様のお祈りに加えていただけますよう、お願い申し上げます。

玉島教会 牧師 三浦 きょうこ



自分の特長を人から尋ねられたら、わたしは「明るいこと」とお答えしています。イエス様

のおかげでわたしたちキリスト者は、究極的キリスト教樂觀主義者としてこの世を歩む事が出来ています。であるならば、イエス様のために自分をも思いつきり使っていただきたい。そのためのモットーは、「ひとりでは出来ないことも、みんなですればきつと出来る。しかも楽しく出来る」です。みなさんと一緒に、変わらぬものと変わっていくべきものを祈り求めてまいりましょう。委員はみなさんの窓口、どうぞお気軽にご意見お寄せいただければ幸いです。

総社教会 信徒 土井 しのぶ



岡山県中部地区総社教会の土井しのぶです。

約十年前、二〇一三年総社教会再出発（代務

者は召天された嵐護先生）からをふり返りますとこの間、本当に大勢の人が動いてくださいました。今私の実感は「神様は人を動かされる」です。少々きつくても人たちが集まり、そして喜んで帰って行かれた。今の「教会お訪ね隊」の働きはそれに似て

います。

教会が元気になるには鎮座してはダメ、人と人の交わりが大切なのだと思います。足を運ぶ、心を運ぶ、どうぞよろしくお願いいたします。

蕃山町教会信徒 河田直子



第七四回定期総会において、教区常置委員として河田にお委ねくださり感謝申し上げます。

常置委員としての働きが、主のみ心になりますよう、どうかお祈りください。この総会で承認された議案第一四号「将来的東中国教区宣教に関する件」は今後二年間の常置委員会の課題となりました。東中国教区という小規模教区ならではの宣教の方法、また工夫、などが必ずあるはずですが、皆さまのお祈りに覚えていただき、東中国教区の諸教会が聖霊の力を得て、力強く伝道していくために、良き知恵が与えられますように。

久世教会牧師 宮本裕子



この度、第七四回総会期において常置委員に選出いただきました、久世教会

の宮本裕子です。感謝いたします。久世教会に遣わされて早や八年、私はここ東中国教区で准允を受け、按手を受け、働き、この地で牧師としての歩みを支えていただきました。微力ながら、今度は私が教区にお返しできることは何かと考えています。私たちが更に協力し合い、共にリスペクトして働ける関係を築き、ますます関係を強固にしていくことに力を注ぎたいと思います。二年間、どうぞよろしくお願いいたします。

児島教会信徒 平川英勝



一九六二年に洗礼を受けて六三年になりました。この歳まで教会に繋がることが不思議でな

りません。幸いにも私は良き友を与えられ、互いに心の姿勢を写す鏡として励まし合いながら信仰生活を通してきました。残る余生を教区の小さな教会の為に手伝いをしたいと願っています。信徒が減って教会の維持管理が難しくなっている教会が多数あります。

「教会お訪ね隊」にも参加して、いつの日か天城教会・総社教会のように復活することを夢みて働きたいと思っています。皆様の応援と協力をよろしくお願いします。



「各委員長の抱負」

「憩いの発信を目指して」

教区ニュース誌委員長 中道祐太



今期教区ニュース誌委員会の委員長になりました中道祐太です。

現在の教区ニュース誌の課題として話題の内容をタイムリーに教区内の皆さんにお伝えすることができないという所と紙面や予算の制約上、扱うことのできる記事に制限があるというモノがあります。そのため毎回委員会では紙面に載せる内容について話し合いその重要性を鑑みると研修会や教区内人事などの「案内」「紹介」「報告」に偏ってしまう事があります。

それらの課題についてはもちろん以前から委員会内でも議論になっていますし、先日委員会において「いろんな記事がまとまったものとして一気にニュース誌として

発信するのではなく、東中国教区のWebサイトに〈教区NEWSデジタル(仮)〉といった枠を作成し、小出しに記事を投稿していくのはどうだろうか」という声が出ています。またその小出ししていく中でも重要なモノは「教区ニュース誌」として電子化、また紙ベースとして発行するという新たな姿やいろんな可能性を委員会において共有することができ一歩ずつ前へと進んでいる状態です。

個人的には今日、仕事においても私生活においても、もちろんこの教区ニュースや教区の活動においても「余白がなく息苦しい」と感じさせられることがあるので、この教区ニュース誌を通して重要な情報を発信しつつ「休ませてあげよう」という主の休息への招きのように皆さんに心の余白をも発信していくことができたかと考えています。

「東中国教区財務の5年間の推移(2020年度～2024年度)と課題」

財務部委員長 田中英也



二〇二〇年度よりのコロナ禍に対応するため、十九年度の予算より十%下

げた予算を基に、過去三年間の平均による数値をもとに、負担金賦課の現住陪餐会員割A…1/3、経常支出割B…2/3(謝儀控除を加えて計算)のA+Bにより負担金を決定してきました。

この間の教区の現状は、現住陪餐会員が二〇三名減少し一五八五名、経常支出が約二六〇〇万円減少し、負担金は一七一万円減額しました。主な対応は、総会、各部・地区委員会がZoom会議でなされ、交通費、宿泊費が削減され、次年度繰越金となった事に依ります。

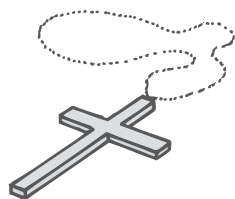
一方、二〇年度以降「教区の集い」は休

止になったままです。また、二二年度における東中国教区の「代務・兼務教会」の割合が1／3を越えました。今後の東中国教区の宣教課題に対する予算処置をどうしていくのか、大きな課題として取り組む必要があります。

二四年度事業として、八年ぶりに財務役員研修会を岡山教会と倉吉上井教会の二会場で実施し、参加者が合計三九名でした。

濱上進前委員長を講師として研修しましたが、テキストの内容が多く、端折つての説明となり初心者の方には難しい話になったようでした。

このテキストは不参加の全教会にも教区事務所より送付して頂きました。是非これを活用して各教会において、牧師と役員全員で研修会をして頂くことを切望致します。



「今年度伝道委員会活動について」

伝道委員会委員長 加藤 隆



田中寛也先生から変わり、今年度から伝道委員会委員長になりました加藤隆

です。どうぞよろしくお願いします。

今年度の伝道委員会は、新たに蕃山町教会の加藤英徳先生をお迎えして六人体制でスタートしました。二〇二五年度活動の中心となるのが、「教会交流・交換講壇」です。今まではコロナ禍の影響もあって小規模での開催でしたが、今年度は教区各教会の皆さまの交流を促進、活発化したいという願いから昨年度以上の規模で行うことを目標にしております（このニュース誌が発行される頃には、もうすでに皆様の教会には参加のお願いのお知らせが届いている事と思います）。県を超えた交流、また普段は交わりをあまり持つことのなかった教会との交流、新しく先生を迎えられた教会と

の交流、そういったたくさん新たな交わりが皆さまの導きによって始められていくことを願っております。今年度様々な事情によって参加することの叶わなかった教会の皆さまも、ぜひ次年度以降のご参加をお願いいたします。

もう一つの中心が「次年度以降の一泊研修会の計画」です。具体的な日時、年度の開催は未定ですが、教区内で必要とされている伝道の学び、課題解決、そして教会同士の交わりの形成に少しでも役立つことの出来る会を企画しております。こちらの詳細は追ってお知らせすることになります。また、何か伝道についての相談事がありましたら遠慮なく各伝道委員までお知らせください。どうぞよろしくお願い致します。



「お聞かせください、地区の声」

今回は「岡山県中部地区」です！

岡山県中部地区

倉敷水島教会 牧師 小岩 輝

岡山県中部地区には八つの教会があり、各教会の教職と信徒（代表）から構成される地区伝道協議会が、二ヶ月に一度定期的に開催されています。会場は各教会が持ち回りで担当するため、普段会うことができない信徒の方にも出会うことができます。中部地区特有の各教会の信徒同士のつながりや活発な相互交流について、「ナインの会」をご紹介しますと思います。

「ナインの会」は、もともと地区における女性信徒たちの交わりと親睦の機会と位置付けられてきましたが、今やすべての方々に開かれた伝道日帰りバス旅行と講演会とにより、地区全体の善き交わりの場となっています。交わりと言いますと、参加者の喜びを満たすために行われるもののように思われるかもしれませんが。しかしながら、「ナインの会」においては異なります。

参加者の心の根底に祈りがあり、たとえ参加ができなくとも、参加者のために祈り、盛会を祈る方々に支えられた交わりとなっています。毎回、想像を超える大きな恵みを感じることができるのは、神さまの祝福を受け、神さまの招きに応えた一人ひとりの思いの総体、祈りの共同体を形成しているからに他なりません。

「ナインの会」における企画は必ずしも万人受けするものばかりとは限りません。難しいテーマの時もありました。それをどうにか参加者と共有できる企画にまで練り上げられたことには、陰ながら誠実、実直に奉仕をされるナインの会代表者の方々の存在があります。自分事としてテーマを考え、知恵を出し合い、企画を立案し、実行できるまで組み立て、外部と交渉し、当日の準備・進行を行う。それ



ぞれの賜物を生かして、互いに力を合わせる姿は、実に芳しいものです。代表者会では、各教会の実情が共有され、真剣に祈り合う姿がありました。この善き交わりに、いつしか男性の協力者も与えられています。私たちの地上における生は限りがあり、いつか来るその日まで、その日その時に与えられた課題を共有し、互いに悩み・喜び合い、互いに祈り合うことを通して、私たちはキリストにおいて一つとされています。私たちは決して完成されたものではなく、絶えず神さまの御言葉を受けて応答する、瑞々しい信仰を持った群れでありたいと願っております。もしこのような中部地区の考えが、主の御心に適い、他地区の方々にも受け入れていただけますならば、善き交わりがますます拡がり行きますように、お祈り申し上げます。

東中国教区の各地区のご様子を広く知っていただくために『お聞かせください、地区の声』を連載しています。互いに知り、互いに祈り支えていく歩みの一助となればと願っております。
(ニュース誌委員会)

「ハラスメント学習会」報告

「固定化という病々教会型

ハラスメントを」ご存知ですか？」

SH防止小委員会 副委員長 金子直子

教会型ともいえる特有の対人関係に焦点を当て、参加者の自己吟味を促す東中国教区「ハラスメント学習会」。十七年間通算二五回の開催を通じ、時代の変遷に即した学びを提供してきました。近年は教会内での「固定化」をテーマとし、「アタリマエ」と化している思い込みや暗黙の上下関係・役割分担、そして既得権益について再考します。

二〇二五年度第一回目となった六月十七日（火）には、米子錦町教会を会場として六教会十三名が集いました。年月を重ねて築き上げられた「固定化した認識と関係性」が、実は対人関係や創造力への厄介な足かせとなっていることに気づかされたという語る参加者は、このテーマを今後の教会内での学びに繋げたいという心強い感想を残されました。謙虚に他者に向き合い、その

声を聴き、さまざまな違いを越えて相手を尊び、そして自らを振り返る・対話を通して培われる共感力こそ、ハラスメント防止の強固な基盤です。

SH防止小委員会は、地区・教会からの学習会開催のお声かけを待っています！

「長島スタディーツアー」報告

社会委員会委員長 山田邦彦

六月一四日、難波幸矢さんのご講演と光明園・愛生園内ご案内という貴重な機会をいただいた。岡山の方々、特に教会関係者には周知の研修内容だからか、今回、委員、講師以外のご出席は八名のみ。東中国教区教会関係者以外でご参加いただいたのは、土井しのぶさんのお連れ合い、甲山教会上内恵牧師、上下教会員杉原朝香さん。皆さん、難波さんがおっしゃる「国がしかしたことを確認しに來られた。

上内先生はCコースで教師となり三年目。広島観音町教会、広島女学院中学・大

学で信仰に導かれ、遠藤周作を専攻されたことから、『わたしが棄てた・女』をきっかけにハンセン病患者への関心・共感を抱かれた。ツアーでは特に、入所者が産もうとした生命を辱めていた痕跡に触れ、心を痛めた、とのこと。

参加者は皆、両園をどう残していくかを思いつつ、研修を一旦、終えた。



光明園家族教会

「教会お訪ね隊」活動報告

岡山県側隊長 延藤好英

「教会お訪ね隊」の活動報告をします。

そもそも「教会お訪ね隊」は、二〇二三年五月二十二日にオンラインで開催された第七十二回東中国教区定期総会の中で「将来的東中国教区に関する件」の②として審議され、可決されたものです。その後「教区ニュース」や文書により、参加者と受け入れ希望教会を募りました。しかし、参加者は少しずつ与えられたものの、受け入れを希望する教会が無いままに二年が経過しました。そこには、「もっと自分たちで頑張れるのではないか」「他の教会に迷惑をかけたくない」という思いがあったようです。

しかし、二年が経過して初めて一つの教会から作業希望の声が届きました。それは岡山県西部地区にある高屋教会でした。「教会お訪ね隊」の初めての出勤は二〇二五年六月二日（月）になりました。庭木の剪定、伐採、草刈り作業をしました。刈った草や枝は教会片隅に集めました。午前中の作業、午後は、昼食と交わりのプログラムとしました。西部地区の教会の方々がカレーライスを用意してくださいました。「教会お訪ね隊」は教会の内外をきれいにしま

す。けれどもそれは第二の目的です。第一の目的は、会場教会の方々との交流です。この教区の宣教を共に担っていき思いを新たにすることです。参加者は九教会十八人でした。

二回目の出勤は七月四日（金）でした。会場は、岡山県東部地区三石教会でした。庭木の剪定と草刈りをしました。刈った草や枝は教会がある備前市のクリーンセンターに持ち込みました。午前中に作業をし、午後は各自が用意したお弁当で昼食をいただきながら交流の時間を持ちました。五教会十人の参加でした。



【教会婦人会連合】

教区教会婦人会連合では、今年度の『教会婦人会連合のつどい』を下記の日程で行います。ご婦人に限らず、どなた様でも、大勢のご参加をお待ちしております。

日時：2025年11月24日（月・祝）
13時～16時

場所：蕃山町教会・米子教会
（2会場はオンラインでつなぐ）

講師：秋間文子先生（茅ヶ崎南湖教会）

テーマ：「キリストにある平和を共に追い求めよう」エフェソの信徒への手紙に聴きつつ」

申し込み先：八束

電話 090-16847-5778

メール masami_eight@yahoo.co.jp

編集後記

今号から新体制となったニュース誌委員会。しっかりやらかして当初よりも大幅に遅れての発行となりました。ごめんなさい。次回がんばります。（K）

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
（イイミミット ハナソウ）
電話番号 〇九〇-一三三三〇-八七三〇